

サハリン・ニヴフの昔話（1）

丹菊 逸治 編

Ю. И. Миглут 口述

1. 採録の経過

2003年11月20日～2004年1月19日の1か月間、編者はロシア連邦サハリン州（サハリン島）に滞在しニヴフ民族の言語・文化調査を行った¹。2003年11月29日～12月25日まで同島中部のポロナISK市に滞在し同地域の方言調査を行った。当時、チルウンヴド在住のЮлия Иванова Миглут氏がたまたま同地に滞在しており、12月1日にポロナISK市歴史博物館館長の Светлана Санги氏より紹介を受けた。Ю. И. Миглут氏はお孫さんの世話などでお忙しいところではあったが、こちらがニヴフ語・ニヴフ文化に関して勉強中だと伝えると、協力を快諾してくださった。実は氏には1999年に千葉大学の撮影グループがチルウンヴドを訪れた際、調査に同席していただいている。しかしそのときは慌しくて話を交わす間もなく、名前すら確認出来ずじまいだった。その後チルウンヴドを何度か訪れたが、氏とは会う機会がなかった。したがって今回は初めての共同作業である。

2. 口述者プロフィール

Юлия Иванова Миглут氏は1951年ポトヴォ（チルウンヴド近郊）生まれの女性。父は Тыщвиц 氏（シャニヴォヌグン集団出身）、母は Миглут 氏（コイヴォヌグン集団出身）である。親戚筋からは有名な文化伝承者を輩出している。父の影響か若干北部の方言語形が混じる。「母にまるでウイльта人のような話し方をする子だといわれた」と笑っていた。現在はチルウンヴドに住んでいる。鉄分不足による貧血に悩まされているが、それ以外はいたって健康である。

3. テキスト作成の手順

現在では家庭内においてもニヴフ語が使用される機会は少ない。Ю. И. Миглут氏も長いことニヴフ語を使用していなかったという。実際、編者の観察でも、ロシア語での会話中にしばしば単語・短文レベルで用いられるだけでニヴフ語のみでの会話は非常にまれである。氏との作業当初もニヴフ語がなかなか出てこなかった。しかし一週間ほどして12月6日に編者が持参した昔話の録音を聞いた頃には大分慣れたようである。同日、本編の第1話（火の化け物に関する昔話）と第2話（小鳥に関する昔話）の二つをニヴフ語で語っていただいた。12月9日にはさらに、その聞き起こし原稿の校正をしていただき、さらにいくつかの昔話をロシア語で語っていただいた。翌日12月10日にそれらの昔話を今度はニヴフ語で語り、それを編者が直接ノートパソコンに打ち込む、という方法でテキス

¹ 2003年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究課題名「アイヌを中心とする日本北方諸民族の民具類を通じた言語接触の研究」研究代表者 中川裕 による。

ト化した。その際、氏には出来るだけ同時にモニター上で表記をチェックしていただいた。とはいえタイプしたのは编者であり、タイプミスや聞き誤りなどがあれば编者の責任である。12月16日に最後の昔話第7話（山中で拾った子供の昔話）をテキスト化して作業を終えた。

本テキストはこのようにして出来上がった。つまり昔話の語りを文字化したものではない。氏が目前で文字化される様子を見ながら、さらには少しずつ修正しながら作り上げられたものである。昔話の文体が用いられてはいるが、構成は書き言葉に準ずるものと考えられるべきかもしれない。

4. 本テキストのジャンル

本テキストは **т'ыггыр**（トゥルグシュ）と呼ばれるジャンルで、おおむね日本の「昔話」に相当する。このほかに、サハリン方言地域では節つきで歌われる叙事詩 **ҕастур**（ンガストシュ）がある。また個人の体験談や伝説などは単に **көр**「話」とよばれる。本テキスト作成時にはすべて **Ю. И. Миглут** 氏本人が **т'ыггыр** と呼んでいたが、第4話、第5話はどちらかという **көр** に近い内容である。第4話は海での作業時の護符に関する話で **т'ыггыр** としては内容が物語的でなさすぎる。第5話に具体的な地名（ノグリキ）が出てくることなども通例の **т'ыггыр** らしくない。しかし **Ю. И. Миглут** 氏本人はトゥミ川中流の住人であり、海での具体的な習俗や、海辺の町ノグリキの山については知らない。いずれの話も伝聞であることが、**т'ыггыр** とみなされることと関係があるのかもしれない。

5. ニヴフ語表記凡例

テキスト本文の表記はキリル文字表記、IPA 準拠の表記を併記した。前者は **Ю. И. Миглут** 氏の目前で文字化したのち修正を加えてある。表記法は原則として1991年版のニヴフ語教科書 **урла к'эң**「美しい太陽」と同じである。ただし、**ни[ni]**と**њи[ni]**を書き分けず共に **ни** で表記してあるなど多少の異同がある。現在までおそらく教科書のものが最も権威ある表記法と見なされている。しかし複数の教科書がそれぞれ異なる表記法を採用し混乱が生じている。結果ニヴフ人の多くは各人ばらばらに折衷的な表記法を用いている（厳密に統一されてはいない）。基本的には1991年版教科書と同じだが **г[ɣ]**と**ҕ[ɣ]**、**ни[ni]**と**њи[ni]**、の書き分けはあまりなされない。また **ÿ** はあまり用いられていない。**г[ɣ]**と**ҕ[ɣ]**には音韻的な対立があるが、両方とも「符号付の **г**」と呼ばれ表記に混同が起きているようである。結果、複雑な形をした文字 **ҕ** があまり用いられなくなっている。なお **i** の後では **[n]**、**[ɲ]** に対立はなくなりともに **[ɲ]** と発音されるので **ни[ni]**と**њи[ni]**を書き分ける必要はない。逆に **и[i]**と**й[i]**に音韻的な対立はないと考えられるが、書き分けようとする人もいる。本テキストのキリル文字表記では現地の表記に出来るだけ沿ったが、**г**と**ҕ**は表記し分けた。**и**は用いていない。IPA 準拠表記では **и**と**и̥**はともに **[i]** で表記した。なお IPA 準拠表記と日本語訳は分かち書きおよび形態素の区切り（**[-]**あるいは**[・]**で区切った）が対応している。形態素の順序が異なるなど日本語訳がつけにくい場合、マーカーや挿入母音の位置を **[]** 内で示した。**()** は直前の形態素の機能を説明したものである。

Т'ЫЛГУР 1.

t^həlgur^h 1.

昔話 1.

-
- 1 ВО НЯҚР РУХ НИВН ТЯҚР ХУНВДГУН.
vo.naqr^h ruχ.nivŋ saqr^h hunv-d-γun.
村 ひとつ に 人 3つ 住んでい・た・[複数].
-
- 2 ЫТК ХАРА ЫМК ХАРА,
ət̪k haɾa əmk haɾa,
父 と 母 と、
-
- 3 ИН МЫТЬКЫЛК ҖАҖ ЭҖЛИҖ ХАРА.
in məskəlk r^haɾ ɛv̪lɨ haɾa.
彼らの 小さな 女の 子供 と。
-
- 4 ИН ЭҖЛИҖ ТАФ КОМИ ФИР ЛЕРД.
in ɛv̪lɨ taf komi fi-r^h lɛr-d.
彼らの 子供は 家 のそば にい・て 遊ん・だ。
-
- 5 К'ЫРҖЫ П'ҖАФ ТОХ ЮҖР, ЙЫМК МА ЯҚРЫМД.
k^hər-ŋə p^h-r^haf toχ juγ-r, j-əmk ma jaq-rəm-d.
お腹が空・いたので 自分の・家 に 入る・と、彼女の・母は 干し魚 を切っ・て・い・た。
-
- 6 ЭҖЛИҖ МА ЭҚР КЫМА ХАҖ МА ҖЕИНЫҖ,
j-ɛv̪lɨ ma ɛk-r^h kəmaɾa-r^h ma ɟe-inə-r^h
彼女の・子供は 干し魚 を欲しがっ・て 伸ばし・て 干し魚 を取・ろうとし・て
-
- 7 ЙЫМК ЕРХ ИТҖ,
j-əmk j-erχ it-r^h,
彼女の・母親は 彼女・に 言っ・て、
-
- 8 «ТУКО! НИ НАШЫ МА ЯҚДРА.»
"tuko! ni naɾrə ma jaq-d-ra."
「静にしないで。私は まだ 干し魚 を切っ・てる・のだよ。」
-
- 9 ЭҖЛИҖ КЫМАХАҖ ТЯИ, МА ҖЕИНЫҖ,
j-ɛv̪lɨ kəmaɾa-r^h, saɪ ma ɟe-inə-r^h,
その・子供は (手)伸ばし・て、干し魚 を取・ろうとし・て
-
- 10 П'ҖАМК ЯҚР, ЧОХ ПА ТУЛЕ.
p^h-r^hamk jaq-r^h, c^hoχ pa tuɫe.
自分の・手 を切っ・て、血がピュッと吹きだした。
-
- 11 ИН ҖАҖ ЭҖЛИҖ ҚАҖУИҖ ИКУС ТОХ КУЗРЫМД.
in r^haɾ ɛv̪lɨ qaγui-r^h ikus toχ kuz-rəm-d.
彼らの 女の 子供は 泣い・て どこか へ 出・て行ってしまいつつあ・る。
-
- 12 ЙЫТК ИТҖ, «ҖАҖҚАИРА, ТАФ ТОХ ҖОҖПУЯ.»
j-ət̪k it-r^h, "ŋaɾ^hqaira, taf toχ r^hoɾ^hpu-ja."
その・父が 言っ・て、「かわいそうに、家 に 連れて来い・よ」
-
- 13 ЙЫМК КУЗҖ, П'ЭҖЛИҖ ОЛАҖҖ,
j-əmk kuz-r^h, p^h-ɛv̪lɨ olaγ-r^h,
彼女の・母は 外へ出・て、自分の・子供 を呼ん・で、
-

- 14 «олаа, п'раф тох прья.»
"ola, p^h-r^haf toχ pr^hə-ja.
「おい、自分の家へ来なさい。」
-
- 15 еҗлҗ эхс тох вир кагор,
j-ek^hl^h exs toχ vi-r^h kaχo-r^h,
その子供はよその場所へ行って泣いて、
-
- 16 йымк тьяи ёлахр,
j-əm^hk sai jolaχ-r^h,
その母は再び呼びかけて、
-
- 17 «олаа, прыр, ымк мыньк момуя.»
"ola, pr^hə-r^h, əmk məŋk momu-ja."
「さあ、来て、母のおっぱいを吸いなさい。」
-
- 18 еҗлҗ кмирҗ җакс ми рох юр кагуид.
j-ek^hl^h kmir^h ɟaks mi roχ juχ-r^h kaχui-d.
その子供はハマナスの枝(やぶ)の中へ入って泣いていた。
-
- 19 кагуир, п'ымк рох игд.
kaχui-r^h, p^h-əm^hk roχ it-d
泣いていて、自分の母に言った。
-
- 20 «ни ымк рох оскдра,
"ni əmk roχ oska-d-ra,
「私は母に怒ってるのだよ、
-
- 21 ни ымк рох оскдра.»
ni əmk roχ oska-d-ra."
私は母に怒っているのだよ。」
-
- 22 авьял зил зил
avjal zil zil
アヴヤル ズイル ズイル
-
- 23 авьял зил зил
avjal zil zil
アヴヤル ズイル ズイル
-
- 24 ни ымк мыньк рох оқоқод
ni əmk məŋk roχ osqosqo-d
私は母のおっぱいに戻ってき(?)た
-
- 25 ни ымк мыньк рох оқоқод
ni əmk məŋk roχ osqosqo-d
私は母のおっぱいに戻ってき(?)た
-
- 26 авьял зил зил
avjal zil zil
アヴヤル ズイル ズイル
-
- 27 авьял зил зил
avjal zil zil
アヴヤル ズイル ズイル
-

28 мыгъкулк тевр̆к мур̆ пуир̆ вид.

mæckəlk tev^hk mu-r^h pui-r^h vi-d.

小さな 小鳥 になっ・て 飛ん・で 行っ・た。

29 нивгун сик мыдгунак,

ni^v-g^un sik mə-d-g^un-ak,

人・々は みな 聞い・た・[複数]・[強調]

30 ху тевр̆к толваиңы,

hu tev^hk tolv-ai-ŋə,

この 小鳥は 夏・になる・と、

31 кмирң џакс ми фир̆ терымд.

kmir^ŋ ɟaks mi fi-r^h ce-rəm-d.

ハマナス の(茂った)枝 の中 にい・て さえずっ・て・い・た。

32 авьял зил зил

avjal zil zil

アヴァル ズイル ズイル

33 фюуть фюуть ють

fuc fuc fuc

フユチ フユチ フユチ

34 фюуть футю ють

fuc fuc fuc

フユチ フユチ フユチ

35 сик.

sik.

終わり。

2003. 12. 09

т'ылгур̆ 2.

t^həlgur^h 2.

昔話 2.

1 азмть тяқр̆, тяқр̆ џа џангт виңы,

azmɕ saqr^h, saqr^h ɟa ɟanɟ-t vi-ŋə

男が 3人、3人で 動物 を獲り・に 行っ・て

2 ин, нивң нен, ин аки, жуң таф п'ир̆ хунвра,

in, ni^vŋ nen, in aki, hu^ŋ taf p^hi-r^h hunv-ra,

彼らの、ひと 一人、彼らの 兄が、この 家 にとどまっ・て い・て、

3 асқ менң џа џангт вита,

asq men^ŋ ɟa ɟanɟ-t vi-ta,

弟 二人が 動物を 獲り・に 行っ・て、

- 4 ин аки, туғр итир хунвд.
in aki, tuɣr^h iti-r^h hunvd.
彼らの 兄は、火を見・て いた。
-
- 5 ин җа җангтот палух, парвайҗа прьдгун.
in җа җану-tot pal ux, parv-ai-җә pr^hә-d-ɣun.
彼らは 動物 を獲つ・てから 山 で、夕方・になつ・たので 来・た・[複数]。
-
- 6 п'раф тох прьңы,
p^h-r^haf tox pr^hә-җә,
自分の・家 に 来・て、
-
- 7 җа җанг таф тох прьңы,
җа җану taf tox pr^hә-җә,
動物 を獲る 小屋 に 来・て、
-
- 8 ин аки нашпы, таи рук гахәй туғр ми рьд.
in aki nappә, tai rukаха-r^h, tuɣr mi r^hә-d.
彼らの 兄は まだ、キセル をくわえ・て、火 の中 を見ていた。
-
- 9 туғр пағлы, пағлы, нашпы уд.
tuɣr paɣlә, paɣlә, nappә u-d.
火は 赤く、赤く、まだ 燃えていた。
-
- 10 ин чай ратот позңы,
in c^haj ra-tot poz-җә,
彼らは お茶 を飲ん・てから 寝た・が、
-
- 11 ин аки нен нашпы хупр таи рукр хунвд.
in aki nen nappә hup-r^h tai ruk-r^h hunv-d.
彼らの 兄 ひとり まだ 座つ・て キセル をくわえ・て いた。
-
- 12 т'атҗ хаңы, ин җа җангт витот,
t^hatɟ ha-җә, in җа җану-t vi-tot,
朝 になつ・て、彼らは 動物 を狩り・に 行く・と、
-
- 13 ин җафқ, нашпы хымтир хунвд.
in җafq, nappә hәmti-r^h hunv-d.
彼らの 友は まだ そうし・て いた。
-
- 14 нашпы қ'одикавр, туғр ми рьд.
nappә q^hodi-kav-r^h, tuɣr^h mi r^hә-d.
まだ 寝ることもなく・て、火 の中 を見ていた。
-
- 15 қ'одикавр хымтир туғр рьңы,
q^hodi-kav-r^h hәmti-r^h tuɣr r^hә-җә,
寝る・こともなく・て そうし・て 火 を見ていた・が、
-
- 16 ин ихлуд, яғур, яғур п'раф тох видгун.
in ixlu-d, jaɣu-r^h, jaɣu-r^h p^h-r^haf tox vi-d-ɣun.
彼らは 怖かっ・た、すぐに、すぐに 自分の・家 に 行っ・た・[複数]。
-
- 17 п'раф тох мағтот, нивгун к'ердгун.
p^h-raf tox maɣ-tot, niv-ɣun k^her-d-ɣun.
自分の・家 に 近づい・ていくと、人・々 に話し・た・[複数]。
-

- 18 пал доҳ виңы,
pal dox vi-ŋə,
山 へ 行った・のだが、
-
- 19 нивгун воруворут пал доҳ мардгун.
niv-γun voru-voru-t pal dox mar-d-γun.
人・々は 集まり・集まりし・て 山 へ 行っ・た・[複数](のだ)。
-
- 20 ин њафқ напшы хымтир туғр рыр хунвд.
in ɲafq nappə həmti-r^h tuγr^h r^hə-r^h hunv-d.
彼らの 友は まだ そうし・て 火 を見・て いた。
-
- 21 (осина так оставили)
そしてアシーナ(白楊)という木を(地面に)差し込んで
-
- 22 туғр милк сик ин њафқ њаврми иньҳард.
tuγr milk sik in ɲafq ɲavrmī iɲvar-d.
火の 化け物の 体中を 彼らの 友が 背中に 突き刺し(?)・た。
-
- 23 ин п'во роҳ ягут клоит видгун.
in p^h-vo rox jagu-t kloī-t vi-d-γun.
彼らは 自分の・村 に 急い・で 走っ・て 行っ・た・[複数]。
-
- 24 хаим нивгун итдгун, к'ераидгун.
haim niv-γun it-d-γun, k^herai-d-γun.
年とった 人・々は 言っ・た・[複数]、 話し・た・[複数]
-
- 25 «туғр милк ин њафқ иньҳард»
tuγr milk in ɲafq iɲvar-d
火の 化け物を 彼らの 友が 突き刺し(?)・た
-
- 26 сик.
sik.
終わり。

2003. 12. 09

Т'ЫЛГҮҮ 3. «КЛҮЛНИ»

t^həlgur^h 3. "klulɲi"

昔話 3. 「クモ」

- 1 ты њынк р̄аг ненџ ычх авр хунвд.
tə ɲənk r^hag nɛɲə əç^hx av-r^h hunv-d.
その 昔 女性が 一人 夫 と結婚し・て 暮らして いた。
-
- 2 энак нивџ авиныр к'ымлыд.
əna-k nivɲ av-inə-r^h k^həml-ə-d.
他の者である 人 と結婚し・よう・と 考え・[挿入母音]・た。

- 3 кымылфке, тамтиң п'ычх выкзиныд.
k'həm-ə-l-fke, "tamci-ŋ p'h-əc'h vəkz-i-nə-d...."
考えた・[挿入母音]・が、「どうやって 自分の・夫 を無く・なる・ようにする・のだ」
-
- 4 клулңи опоѝ, алы ми сиѝ, чо гин вылкѝ,
klulŋi opo-r^h, als mi si-r^h, c^ho yin vəl^hk-r^h,
クモを 採取し・て、草の実 の中に 入れ・て、魚 と 混ぜ・て、
-
- 5 п'ычх аѝт, йычх ху лазң алы ниѝ муд.
p'h-əc'h ar^h-d, j-əc'h hu lazŋ als ni-r^h mu-d.
自分の・夫 に食べさせ・た、彼女の・夫は この まぜた 草の実 を食べ・て 死ん・だ。
-
- 6 яң муңы, клулңи гин йытъх ух амамдгун.
jaŋ mu-ŋə, klulŋi yin j-əc'h uх amam-d-yun.
彼が 死ぬ・と、クモ も 彼女の・夫 から 歩いてき・た・[複数]。
-
- 7 хайм нивгун итдгун,
haim niv-yun it-d-yun,
年寄りの 人・々は 言っ・た・[複数]。
-
- 8 яң мамган, п'ычх куд, клулңи гин ярѝ.
jaŋ mam-yan, p'h-əc'h ku-d, klulŋi yin jar-r^h.
彼の 妻だ・ということだ、自分の・夫 を殺し・た、クモ も 食べさせ・て。
-
- 9 сик
sik
終わり。
-

2003. 12. 10

Т'ылгуѝ 4. «чхаруѝ»

t^həl^hgur^h 4. "c^hħarur^h"

昔話 4. 「チハルシュ」

- 1 нивгун итдгун.
niv-yun it-d-yun.
人・々は 言っ・ていた・[複数]。
-
- 2 керѝ тох вит, ѝаѝангт виңы,
ker^hq toх vi-t, ѝa ѝan-y-t vi-ŋə,
海 へ 行っ・て、動物 を捕り・に 行く・と、
-
- 3 оск ѝатъх пѝоѝ рѝоридгун.
osq ѝasħ pr^ho-r^h r^hori-d-yun.
ウサギの 足 を持っ・て(?) 持っ・て行く・[複数]。
-
- 4 чхаруѝкун оск хлудгун.
c^hħarur^h-kun osq hlud-yun.
チハルシュ・[複数]は ウサギ を怖がる・[複数]。
-

5 оcқ һамадь ғаврғаи,
osq һamadз ғavr-ғai
ウサギの 皮が 無い・ときには

6 чҳароркун нивгун тол ми роҳ гедгун.
с^hҳaror^h-kun niv-γun tol mi roҳ γe-d-γun.
チハロシュ・たち[複数]は 人・々を 海 の中 へ 取って行く・のだ・[複数]。

2003. 12. 09.

Т'ЫЛГУРЪ 5.

t^həlɢur^h 5.
昔話 5.

1 нивгун керпурдгун.
niv-γun ker^hpur-d-γun.
人・々は 話し・た・[複数]

2 чамн ненн, варор п'фо роҳ вийвуңы,
с^hamn nenн va-ror^h p^h-fo roҳ vi-ivu-ңә,
チャムが 一人 戦い・に 自分の・村 へ 行った・とき、

3 и тулкур, п'ҳас ғутюд, пал роҳ.
i tulku-r^h, p^h-ҳas ғut^l-u-d, pal roҳ.
川 を渡って行く・とき、 自分の・太鼓を 落ち・させ・た、山 に。

4 ху ҳас наппы наппы нивгун идытгун.
hu ҳas nappә nappә niv-γun idət-γun
その 太鼓は 今でも 今でも 人・々 が見・る(ことができる)・[複数]

5 ху пал ҳас пал жаудгун.
hu pal "ҳas pal" hau-d-γun.
その 山を「太鼓 山」と呼ん・でいる・[複数]。

6 сик.
sik.
終わり。

2003. 12. 09.

Т'ЫЛГУРЪ 6.

t^həlɢur^h 6.
昔話 6.

- 1 ты Һанк нивгун т'ылгудгун.
tə ɣənk, niv-ɣun tʰəlgu-d-ɣun.
その 昔、人・々は 昔話をし・た・[複数]。
-
- 2 ӓғ ненӓ ычх авинӓ,
ɣʰaɣ nɛnɔ əsʰx avinə-ɣʰ,
女性が ひとり 夫 と結婚し・て、
-
- 3 п'әҗлиҗ мытгыкылк п'хи роҳ ӓӓӓӓ выкзл.
pʰ-ɛʃliʃ məskəlk pʰxi rox ɣʰoɣʰju-ɣʰ vəkz-d.
自分の・子供 のまだ小さいのを 林 に 背負っ・ていっ・て なくし・た。
-
- 4 яӓ алзӓӓӓ п'әҗлиҗ тоӓ вид.
jaɔ alzɔa-ɣʰ pʰ-ɛʃliʃ to-ɣʰ vi-d.
彼女は 草の実をとり・に 自分の・子供 を背負っ・て 行っ・た。
-
- 5 аҗс п'әҗы, кымлыӓ,
als pʰe-ɣə, kəmlə-ɣʰ
草の実 を採っ・て 考え・て
-
- 6 тас тох п'әҗлиҗ сиид ни.
tas tox pʰ-ɛʃliʃ si-i-d, ni.
ここ に 自分の・子供 を置いて・おこう(未来)・か(終止形)、私は。
-
- 7 лах кикрух идыӓ, лах ваи роҳ п'әҗлиҗ сиӓ,
laɣ kikr ux idə-ɣʰ, laɣ vai rox pʰ-ɛʃliʃ si-ɣʰ,
雲を 上 に 見・て、雲 の下 に 自分の・子供 を置いて・て、
-
- 8 виӓ аҗс п'ед.
vi-ɣʰ als pʰe-d.
行っ・て 草の実 を採っ・た。
-
- 9 аҗс п'әроӓ, лах ӓӓы, я лах уиге,
als pʰe-roɣʰ, laɣ ɣʰə-ɣə, ja laɣ uiɣ-e.
草の実 を摘んで・から、雲を 見・ると、その・雲は 無かつ・たのだ。
-
- 10 нюньк п'әҗлиҗ һангроӓ, п'ӓф тох вид.
nuɣk pʰ-ɛʃliʃ ɣanɣ-roɣʰ, pʰ-ɣʰaf tox vi-d.
少し 自分の・子供 を探し・てから、自分の・家 に 行っ・た。
-
- 11 п'ӓвух п'ычх к'ерӓ,
pʰ-ɣʰav ux pʰ-əʃx kʰer-ɣʰ,
自分の・家 で 自分の・夫 に話し・て、
-
- 12 п'әҗаӓ п'әҗлиҗ выкзл фуру.
pʰ-ɛʃaɔ pʰ-ɛʃliʃ vəkz-d furu.
遠くで(?) 自分の・子供 をなくし・て という話をした。
-
- 13 йычх п'мам һахӓ җусуд, тавух.
j-əʃx pʰ-mam ɣax-ɣʰ ɣusu-d, tav ux
彼女の・夫は 自分の・妻を 罰し・て 追い出し・た、家 から。
-
- 14 нивгун итдгун, тҗя яӓ ычх ивдло.
niv-ɣun it-d-ɣun, ɣai jaɔ əʃx iv-d-lo.
人・々は 言っ・た・[複数]、再び 彼女に 夫は ある・の・か(いや、ないだろう)。
-

15 СИК.

sik.

終わり。

2003. 12. 09.

Т'ЫЛГУРҢ 7. «МИЛК ЭҒЛҢ»

t^həlgu^r 7. "milk evlŋ"

昔話 7. 「化け物の 子供」

1 НИВҢ Т'ЫЛГУРҢ

nivŋ t^həlgu-r^h.

ひとは 昔話をし・た。

2 И ХОМИ РҘҒ МЕНҢ ХУНВДҒУН.

i xomi r^hag menŋ hunv-d-yun.

川 のそばに 女性 3人が 住んでい・た・[複数]。

3 НАНХ ХАРА ЯСҚ ХАРА АЛС ФЕТ ИНЬТА,

nanx hara j-asq hara als fe-t iŋ-ta,

姉 と その・妹 と 草の実 を摘ん・で 食べ・て、

4 ЧО ҢАНҒТ ИНЬТА, ХЫМТИТ ХУНВТА.

ç^ho ɳanɣ-t iŋ-ta, xɣmci-t hunv-ta.

魚 を獲っ・て 食べ・て、 そうし・て 暮らしてい・た。

5 АЛЗ ҢАТ ИН ВИҢЫ, АСЗ ҢАТОТ,

alz ɳa-t in vi-ŋə, als ɳa-tot,

草の実 を摘み・に 彼らは 行・き、 草の実 を摘ん・でから、

6 П'РАФТОХ П'РЫВУҢЫ

p^h-r^haf toɣ p^h-r^hə-ivu-ŋə,

自分の・家 に 帰・ろうとする・と、

7 ЭҒЛҢ ҚАҒОИТ ИН МЫДҒУН.

evlŋ qaɣoi-t in mə-d-yun.

子供が 泣い・て 彼らは 聞い・た・[複数]。

8 П'ХИ УХ НУД ЭҒЛҢ ҚАҒУИРЫМД...

p^hxi ux nud evlŋ qaɣoi-rəm-d...

森 で 何の 子供が 泣い・てい・る(のか)

9 ИН ИДЫҢЫ МЫТЬКЫЛК ЭҒЛҢҢ НЕНҢ,

in idə-ŋə məckəlk evlŋ nenŋ,

彼女らが 見る・と 小さな 子供が 一人、

10 ТЯҚ МИ ФИР ҚАҒОИРЫМД.

çaq mi fi-r^h qaɣoi-rəm-d.

ゆりかご の中 にい・て 泣い・てい・た。

- 11 ху эҗлӓ оҗарт ин тафтох ғелғун.
 hu eʃlɨ oʒar-t in taftox ɣe-d-ɣun.
 その 子供 を可哀相に思つて 彼らの 家 に 持ち帰つた・[複数]。
-
- 12 п'рафтох җорит ярт ян ах қ'окта,
 pʰ-rʰaf tox ɟʰori-t, jarʰ-t jaŋ qʰok-ta,
 自分の・家 に 連れ帰つて 食べさせ・て 眠ら・せ・て、
-
- 13 пат хайны ян нанх алз җағ вира,
 pat hai-ŋə nanx alz ɟa-rʰ vi-ra,
 翌日 になつて 姉が 草の実 を摘み・に 行く・と
-
- 14 ясқ п'раф п'ир п'ифрыра,
 j-asq pʰ-rʰaf pi-rʰ pʰifrə-ra,
 彼女の・妹は 自分の・家 にい・て 留守番をしてい・て
-
- 15 иньк ера, п'эҗлӓ аҗра, жароҗ чах җағ вид.
 iŋk je-ra, pʰ-eʃlɨ aɟʰ-ra, ha-rorʰ ɕʰax ɟa-rʰ vi-d.
 食べ物 を煮・て、 自分の・子供 に食べさせ・て、 そうし・てから 水 を汲み・に 行つ・た。
-
- 16 чах п'ероҗ, п'раф тох җыывуҗ, мыл.
 tʃax pʰe-rorʰ, pʰ-rʰaf tox ɟʰivʉ-rʰ, mɛ-d.
 水を 汲ん・でから、 自分の・家 に 帰・ろうとし・て、 開い・た。
-
- 17 таф ми ух тауд вырк ло... қоюрымл.
 taf mi ux taud vɛrʰk lo, qoju-rɛmɔ.
 家 の中 で 誰 だろう か、 騒い・てい・た。
-
- 18 ку хуты җыльҗ, т'ырҗы, идыҗ,
 ku hutə ɟʰɛlɨ-rʰ, tʰɛɟ-ŋə, idə-rʰ,
 矢の(?) 穴 をあけ(?)・て、 見る・と、 見・て、
-
- 19 ин эҗлӓ, п'тяқ хизҗарҗ,
 in eʃlɨ, pʰ-tjaq hiz-ɟar-rʰ,
 彼女らの 子供は、 自分の・ゆりかご を身につけ・終わつて(外してしまつて?)、
-
- 20 қлоинҗиҗ полоҗҗ, тяқо җиҗ кезюҗ,
 qoɪn ɟiɾʰ pɔloɟ-rʰ, tjaqo ɟiɾʰ kezju-rʰ
 走り で わめい・て ナイフ・を 研い(?)・で
-
- 21 ян җыҗҗаи, ни иньҗарилдра,
 jaŋ ɟʰɛ-ʃai, ni iŋ-ɟari-d-ra.
 彼女が 帰つた・なら、 私は 食べ・てしまうの・だ・ぞ。
-
- 22 ху җағ кымлыҗ, мытькылк эҗлӓ хымтидла...
 hu ɟʰaɟ kɛmɔ-ə-rʰ, mɛɕkɛlk eʃlɨ xəmti-d-la....
 その 女性は 考え・[挿入母音]・て、 小さな 子供が こんな風・である・か。
-
- 23 җы җыльҗы, индыҗы,
 ɟʰɛ ɟʰɛlɨ-ŋə, idə-ŋə,
 戸 を開け・て、見る・と、
-
- 24 еҗлӓ, п'сяқ ми фиҗ, п'выпыҗ қ'орымл.
 jeʃlɨ pʰ-ɟaq mi fi-rʰ pʰ-vɛpə-rʰ qʰo-rɛm-d.
 彼女の・子供は 自分の・ゆりかご の中 にい・て 揺れ(?)・て 眠つ・てい・た。
-

- 25 янанх п̄рыңы, алзңа̄р, ясқ п'нанх херд.
ja-nanx p̄h̄ə-ŋə, alz ŋa-r̄h̄, j-asq p̄h̄-nanx her̄h̄-d.
彼の・姉が 来・て、草の実 を摘ん・で、彼の・妹は 自分の・姉 に語つ・た。
-
- 26 хымти хымти фуриг̄р̄,
həmti həmti fur it-r̄h̄,
こんなふう、こんなふう と語つ・て、
-
- 27 хуң әғл̄ң ган, т̄яи муғв̄ң хаңы,
huŋ ɛv̄l̄ŋ ɡan, ɕai muv̄v̄ŋ ha-ŋə,
その 子供 が [強調]、また 昼 になつ・て、
-
- 28 ясқ пхи роҳ алис п'ёр вид.
j-asq px̄i rox̄ alz pe-r̄h̄ vi-d.
彼女の・妹が 平原 へ 草の実 を採り・に 行つ・た。
-
- 29 янанх п'ифрыра, иньк ера, мытъкылк а̄рра,
ja-nanx p̄h̄ifr̄ə-ra, iŋk je-ra, məskəl̄k aŋh̄-ra,
彼女の・姉は 留守番をし・て、食事を 煮・て、小さいの に食べさせ・て、
-
- 30 харо̄р, пхи роҳ чха̄р ңа̄р вид.
ha-ror̄h̄ px̄i rox̄ ɕh̄xar̄h̄ ŋa-r̄h̄ vi-d.
そうし・てから 平原 へ 薪木 を集め・に 行つ・た。
-
- 31 чха̄р вац̄р п'раф тох̄ п̄рыивуңы,
ɕh̄xar̄h̄ var-r̄h̄ p̄h̄-r̄af tox̄ p̄h̄ə-iv̄u-ŋə,
木 を担い・で 自分の・家 に 帰・ろうとする・と、
-
- 32 нуд вы̄рк ло, ин таф ми фӣр қою̄рымд.
nud vɛr̄h̄k lo, in taf mi fi-r̄h̄ qoju-r̄h̄əm-d.
何 だろう か、彼女らの 家 の中 にいて 騒い・でいる。
-
- 33 ку хуты, алх̄р̄ идыңы,
ku hutə, alx-r̄h̄ idə-ŋə,
矢の(?) 穴を、開け・て 見る・と、
-
- 34 ин әғл̄ң п'сяқ хизғар̄р̄,
in ɛv̄l̄ŋ p̄h̄-ʃaq hiz-ɣar-r̄h̄,
彼女らの 子供が 自分の・ゆりかご を身につけ・終わつ・て(外してしまつて?)
-
- 35 тяқо гин гӣр кзю̄р қою̄рымд.
ɕaqo ɡin ɡir̄h̄ kzju-r̄h̄ qoju-r̄əm-d.
ナイフ などを 研い(?)・で 騒い・でいた。
-
- 36 «ху ра̄ггун п̄рығаи ин ниғаридра.»
"hu r̄h̄aɡ-ɣun p̄h̄ə-ɣai in ni-ɣari-d-ra."
あの 女性・たちが 帰つ・たら 彼女ら を食べ・てしまうの・だ・ぞ。
-
- 37 яңнанах ика клоиг̄ра, п'асқ ор̄р̄.
jaŋ-nanax ika klo-i-ɣ-ra, p̄h̄-asq or-r̄h̄.
彼女の・姉は すぐに(?) 走ら・せ(?)・た、自分の・妹 を起こし・て。
-
- 38 п'асқ ор̄ңы әрх̄ ит̄р̄,
p̄h̄-asq or-ŋə ɛr̄x̄ it-r̄h̄,
自分の・妹 を起こし・て 彼女に 言つ・て、
-

- 39 «КЛОИНАТЕ, КЛОИНАТЕ.
kloi-n-ate, kloi-n-ate.
走る・[未来]・しよう、走る・[未来]・しよう。
-
- 40 МЕН ЭҢЛИҢ МИЛК ЭҢЛИҢ ДА.»
men eŋŋ milk eŋŋ da.
私たちの 子供は 化け物の 子供 だ。
-
- 41 ИКА КЛОИДҮҢ, КЛОИДҮҢ.
ika kloi-d-yun, kloi-d-yun.
すぐに 走っ・た・[複数]、走っ・た・[複数]。
-
- 42 МИЛК ЭҢЛИҢ ИН АРИ НАФ,
milk eŋŋ in ari naf,
化け物の 子供は 彼女らの 後ろだった 今では、
-
- 43 ЯНАНХ П'Е П'АЛҒРИФ ТОҲ ПАЗД.
ja-nanx p^h-e p^h-alγrif toχ paz-d.
彼女の・姉は 自分の・櫛を 自分の・うしろ に 投げ・た。
-
- 44 ИН АЛҒАВУХ ПИЛКАР ЧХАРКУН ПАНДҮҢ.
in alγav ux pil-kar^h c^hhar^h-kun pan-d-yun.
彼女らの かげ に 大き・な 木・々が 生え・た・[複数]。
-
- 45 ХУ МИЛК ИКА ЧХАРКУН КАВРИЮР ИНҢГРА.
hu milk ika c^hhar^h-kun kavγ-iju-r^h iŋ-γ-ra.
その 化け物は すぐに 木・々を 無く・しようとし(?)・て 食べ・たの・だ。
-
- 46 ХУ ЧХАРКУН НИҒАИРОР, ИН АРИР КЛОИД.
hu c^hhar^h-kun ni-γai-ror^h, in ari-r^h kloi-d.
その 木・々を 食べ・終わっ・てから、彼女らの 後になっ・て 走っ・た。
-
- 47 ҖАҒҢУН КЛОИҢРА, КЛОИҢРА,
ʃaγ-yun kloi-γ-ra, kloi-γ-ra.
女性・たちは 走ら・せ・た、走ら・せ・た。
-
- 48 ХУ МИЛК АХ ИН ВОИНЫР,
hu milk ax in voinə-r^h,
その 化け物・によって 彼らは 捕ま(りそうにな)っ・て
-
- 49 ЯСҚ П'МУРР П'АЛҒАФТОХ ПАЗД.
j-asq p^h-mur^h p^h-alγaf toχ paz-d.
彼女の・妹が 自分の・帯を 自分の・後ろ に 投げ・た。
-
- 50 ИН АЛҒАВУХ МЫТЬКЫЛК И ХУКРЫМД.
in alγav ux mæckælk i huk-rəm-d.
彼女らの 後ろ に 小さな 川が 流れ・てい・た。
-
- 51 ХУ МИЛК ИКА ЧАХ ТАҒРА,
hu milk ika tʃaχ ta-γ-ra,
その 化け物は すぐに 水 を飲ん・だ・のだ、
-
- 52 ЧАХ ТАД ЧАХ ТАД, ХУРЬЮР, ХУРЬЮР,
c^haχ ta-d c^haχ ta-d, hur-ju-r^h, hur-ju-r^h,
水 を飲ん・だ、水 を飲ん・だ、ごくつとやっ・て、ごくつとやっ・て
-

- 53 ху чақ тағарр, ин ари тѝи клоид клоид.
 hu c^haχ ta-γar-r^h, in ari t^hai klo-i-d klo-i-d.
 その 水 を飲み・終わっ・て、彼は 後を また 走っ・た 走っ・た。
-
- 54 ху řағғун, ары п'ермуд.
 hu r^haG-γun, arə p^hermu-d.
 その 女性・たちは、もうほとんど 疲れて死ぬ(?)・のだ。
-
- 55 и акдгун
 i ak-d-γun.
 川 に着い・た・[複数]
-
- 56 и тақрух аткычх ненң хупр хунвд.
 i taqɾ ux atkəc^hx nənɟ hup-r^h hunv-d.
 川 の対岸 に おじいさんが ひとり 座っ・て い・た。
-
- 57 ин полождгун.
 in poloγ-d-γun.
 彼女らは 叫ん・た・[複数]。
-
- 58 «аткычха, нин осқуя, эғор, эғор.»
 "atkəc^hx-a, nin osqu-ja, eko-r^h eko-r^h."
 「おじいさん・よ、私たち を渡して・ね、急い・で 急い・で」
-
- 59 аткычх итр,
 atkəc^hx it-r^h,
 おじいさんは 言っ・て、
-
- 60 «ни п'јатъх ыан.
 "ni p^h-ɟasx ə an.
 「私は 自分の・足が ああ 痛い。
-
- 61 чин ах нијатъх титивн, ёскаиве.
 c^hin ax ni-ɟasx titiv-n, josk-ai-ve.
 あなたたち に 私の・足を 道にして(?) 渡ってください(?)。
-
- 62 нивихты зитьф каиве.
 ni-vixtə zicf kai-ve.
 私の・膝 を踏む ことのないように・してください。
-
- 63 чин пихты зитьвғай,
 c^hin pixtə zicv-ɟai,
 あなたたちが 膝を 踏む・ならば、
-
- 64 аткычх ыаин.»
 atkəc^hx ə a-i-n, c^hin i roχ kut-i-d-γun da."
 じいさんは あ・あ・あ(痛くて)、あなたたちは 川 に 落ちる・[未来]・[終始]・[複数] よ」
-
- 65 řағғун пихты алмт, туктоҳ пръдгун.
 r^haG-γun pixtə alm-t, tuk toχ pr^hə-d-γun.
 女性・たちは 膝を 避け(?)・て、こっち へ 来・た・[複数]。
-
- 66 ин аткычх коми фиңы,
 in atkəc^hx komi fi-ɟə,
 彼女らは おじいさん のそばに い・て
-

- 67 и такрух ху милк ах полоғрымд.
i takr ux hu milk ax poloғ-rəm-d.
川の対岸 から あの 化け物 に 叫・ばせ・ていた。
-
- 68 «аткычха, нёсқоя.»
"atkəc^hx-a, n-osqo-ja".
「おじいさん・よ、私・を渡し・なさい」
-
- 69 аткычх итӳ,
atkəc^hx it-r^h,
おじいさんは 言っ・て、
-
- 70 «ныҗатъх ух амамӳ пӳрыя.
n-ŋasx ux amam-r^h p^hə-ja.
私の・足 を 歩い・て 来・なさい。
-
- 71 ургуӳ ньфихты зитъв я.»
urgu-r^h n-fixtə ziev-ja."
よ・く 私の・膝を 踏み・なさい」
-
- 72 ху милк пихты зитъвҗы, аткычх, ыаӳ,
hu milk pixtə ziev-ŋə, atkəc^hx ə a-r^h,
その 化け物は 膝を 踏む・と、おじいさんは ああ 痛くなっ・て、
-
- 73 яңҗатъх турӳтурӳ хаҗы,
jaŋ ŋasx tur^htur^h ha-ŋə,
彼は 足を グラグラ(?) させ・て、
-
- 74 ху милк и роҳ па кутӳӳ,
hu milk i roħ pa kus-r^h,
この 化け物は 川 に ザブンと 落ち・て、
-
- 75 и ух полоғӳ виӳ җакзлад.
i ux poloғ-r^h җakzla-d.
川 で 叫ん・で 溺れ・た。
-
- 76 сик
sik.
終わり。
-

2003. 12. 16.

(たんぎく いつじ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究センター非常勤研究員)
